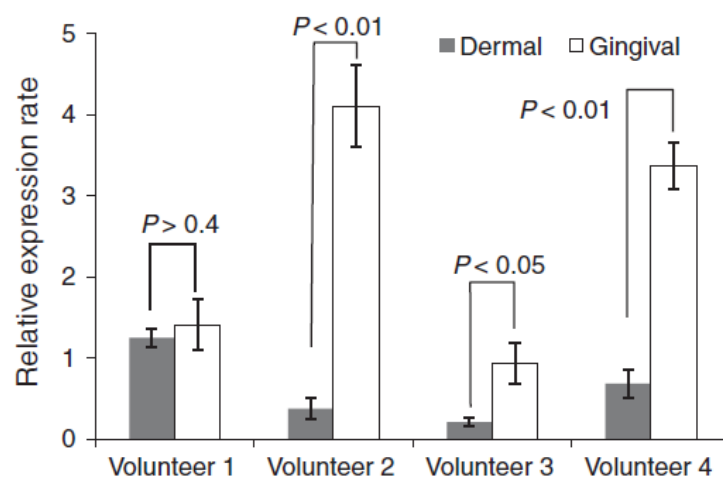


再生医療等提供計画に記載された再生医療等に用いる細胞に関する 研究を記載した書類

口腔粘膜由来細胞は、表皮細胞と異なり角化しないといわれており、異所性グラフトに適しているといわれている。実際に角膜治療にも用いられている。(参考文献1) また、口腔粘膜近傍の歯肉頬以降部ではあるが、皮膚由来細胞との活性を比較すると下記のように IGF2 の活性が4人中3人で高かったことが示されている(下記【図1】参照、参考文献2)。そのため、本治療における尿道狭窄症に対する足場の検討も口腔粘膜由来細胞を用い技術開発を行なった。

【図1】



※参考文献

- 1, K Nishida et al. Corneal reconstruction with tissue-engineered cell sheets composed of autologous oral mucosal epithelium, N Engl J Med. 2004 Sep 16;351(12):1187-96. doi: 10.1056/NEJMoa040455.
- 2, K Ebisawa et al. Gingival and dermal fibroblasts: Their similarities and differences revealed from gene expression, Journal of Bioscience and Bioengineering, 111(3):255-258, 2011
- 3, 特開 2020-117540